
アネ・ユーアクレイジー

くぼた允

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アネ・ユー・アクレイジー

【Nコード】

N0308H

【作者名】

くぼた允

【あらすじ】

十五歳の誕生日。姉さんが僕に、一冊の本をプレゼントしてくれた。

十五歳の誕生日。

姉さんが僕に、一冊の本をプレゼントしてくれた。

「ハッピー・バースデー、四郎」

僕の姉さんが言った。

姉さんはスカートの中から一冊の本を取り出して僕に渡した。

「ありがとう、姉さん。でもそれ、どこに入っていたの？」

僕はとても驚いて言った。

「そのスカートにはとても収まりそうもない大きさだけど」

「それは女の子の秘密よ、四郎」

姉さんは言った。

「そんなことより、早くそれを読んでみて」

僕はまず丁寧に本の表紙を眺めた。ツインテールで胸の大きい女の子が潤んだ瞳で上目遣いをしている絵が描いてある。タイトルは『姉萌大王』と読めた。

「姉さん」僕は言った。

「なあに、四郎」姉さんはやわらかく微笑んだ。

「僕、これを読んじやいけないような気がするんだ」

僕は思ったことを素直に言った。

「まあ。それはどうして？」

目を丸くして、姉さんが言った。

「この本はとても面白い本なのよ」

「だけどね、姉さん。ほら、この本の、ここの所」

僕は表紙の下の方にある、印を指して言った。

「なんて書いてあるか、わかる？」

「『成人指定』と書いてあるわ。私、それくらい読めるもの」

頬を少しふくらませて、姉さんが言った。

「よかった。それじゃ、意味はわかる？　姉さん」

「もちろん。……」おとなのおとこがよむ、えっちなほん』と言つ
意味」

当たり前のように、僕の姉さんは言った。

「さすがだね、姉さん。意味も、ちゃんと分かってる」

僕は感心して、言った。

「そういう訳で、残念だけど僕はこれを読むことが出来ない。返すよ、姉さん」

「そうね。ごめんなさい。私、間違えてしまったみたい」

小首をかしげ舌を出して、姉さんは言った。

「うん。きっとそうだと思った。姉さん意外とそそっかしい所が…」

ある、と僕が言い切る前に、姉さんが言った。

「今度はちゃんとベッドの下に置いておくわね、四郎」

「そこじゃないよ、姉さん」

僕はすかさず突っ込んだ。

「あら。じゃあ、難しそうな本のカバーをつけて、本棚に入れておくのね?」

「違うよ、姉さん。違わないけど、違うよ」

少し動揺しながら、僕は言った。なんで、僕の秘密を知ってるの? 姉さん。

「四郎のことなら、私、なんでも分かるのよ。姉だから」

心を読まないで、姉さん。

「平気よ、四郎。あなたが姉萌本ばかり持っているアネスキーだつてことは、皆知ってるわ。ううん、そんな全部言わなくても大丈夫。そう、四郎は姉である私のことが大好きなのね。ああん、そんな、駄目よ…… あん、素敵」

姉さん、しっかりして。僕はそんなこと微塵も思ってないよ。それに、僕はどちらかと言えば年下好きだよ、姉さん。

「聞こえない。姉さん、何も聞こえないわ」

「それはね、自分で耳を押さえてるからだよ、姉さん」

僕は姉さんの手をやんわりと耳からはずしてあげた。

そしてそのままキスをして優しく腰を抱き、ゆっくりと押し倒した。

「姉さん。お願いだから、僕の心の声に割り込まないで。それは、反則だよ」

僕は姉さんの××を××××すると、僕の××も××××××と××になって×××。

「姉さん、ごめんなさい。だから、もう許して」

姉さんはぷいっと顔をそむけて言った。

「駄目。年下好きの四郎なんて、もう知らない」

僕と姉さんは激しく××××の××××で××××××……。

「姉さん、こっちを向いて」

「何？」

ちゅっ。

「……きゅっ」

幸せそうな顔で、姉さんは気を失った。

「やれやれ」

僕は倒れた姉さんを抱き上げ、ソファに寝かせると、自分の部屋に戻った。

さて。新しい隠し場所はどこがいいかな？

f i n .

(後書き)

最近、年上の女性の良さがわかるようになった気がします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0308h/>

アネ・ユー・アクレイジー

2010年10月9日14時19分発行